

指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

研究計画書番号	RP-S2-19
研究課題名	原爆被爆者の寿命調査における固形がん罹患に対するたばこ飲酒の媒介効果
研究責任者（所属）	デッカー・マシュー（ワシントン大学 疫学部）
放影研での研究責任者	歌田真依
試料・情報の利用目的及び利用方法	<p>利用目的：</p> <p>原爆被爆者では、放射線の被曝によって固形がんの罹患リスクが増えています。放射線の直接的な影響だけでなく、原爆を経験したことによる間接的な影響も想定されます。例えば、特に小児期に被曝した場合、原爆というストレスフルな経験によって、その後に喫煙や飲酒をしやすく、喫煙や飲酒に関連したがんになりやすい可能性があります。本研究は、寿命調査のデータを使用して、このような間接的な影響がどの程度あるかを研究します。</p> <p>利用方法：</p> <p>寿命調査の対象者のうち、小児期に被曝した方を解析の対象とします。まず、爆心地からの距離別に、喫煙と飲酒の状態を比較します。次に、放射線量と喫煙や飲酒に関連したがんのリスクについて、統計的な手法を用いて、直接的な影響と間接的な影響を算出します。解析においては、性、市、がんの診断時の年齢などを調整します。</p> <p>本研究に使用するデータは、放影研で用いる個人識別番号をさらに他の番号に置き換えることにより個人情報を匿名化し、解析します。放影研の個人識別番号と置き換えた番号の対応表は、放影研疫学部で施錠できる保管庫に安全に保管し、外部研究者は使用できません。</p>
他の機関への提供の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（提供先機関：ワシントン大学） <input type="checkbox"/> 無
利用し、又は提供する試料・情報の項目	寿命調査データから、性、市、生年月、生死の別、死亡年月、爆心地からの距離、推定線量（個人が識別できないよう数値は丸める）、喫煙歴・強度（喫煙状態、喫煙開始年齢、喫煙終了年齢、喫煙量）、飲酒歴・強度（飲酒状態、飲酒終了年齢、アルコール摂取量）、学歴、被曝地点の人口密度。 がん登録から、がんの診断情報（部位、診断年月、診断時年齢、がんの診断順序、診断根拠）。

利用する者の範囲	ワシントン大学 デッカー・マシュー フィップス・アマンダ バックワルト・ブランディー モーレンツ・エリック カローヌ・マルコ 放射線影響研究所 歌田真依 グラント・エリック フレンチ・ベンジャミン
試料・情報の管理に責任を有する者の氏名又は名称	デッカー・マシュー (ワシントン大学 疫学部)
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	【研究担当者】 氏名：歌田真依 公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部 住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号 TEL：082-261-3131